

一、傍線部「る」の文法的説明として適当なものを、次のア〜ウから選びなさい。  
〈ア〉受身・尊敬・自発・可能の助動詞「る」の終止形 イ、完了・存続の助動詞「り」の連体形 ウ、動詞の連体形活用語尾の一部

1 病を受くることも、多くは心より受く。 (徒然草)

二、傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア〜ウから選びなさい。

〈ア〉完了(強意)の助動詞「ぬ」の終止形 イ、打消の助動詞「ず」の連体形 ウ、ナ変動詞の終止形活用語尾

1 駿河(するが)なる宇(う)津(つ)の山べのうつつにも夢にも人に逢はぬなりけり (伊勢物語)

三、傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア〜エから選びなさい。

〈ア〉打消の助動詞「ず」の已然形 イ、完了の助動詞「ぬ」の命令形 ウ、願望の終助詞(奈良時代) エ、動詞の活用語尾

1 月もあかければ、おりね。 (和泉式部日記)

四、次の傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア〜エから選びなさい。

〈ア〉四段動詞「なる」の連用形 イ、否定の助動詞「なり」 ウ、伝聞・推定の助動詞「なり」 エ、形容動詞の活用語尾

1 ただ一人、ねぶたきを念じてさぶらふに、「丑(うし)四(よ)つ」と奏(そう)すなり。 (枕草子)

五、次の傍線部の用法として適当なものを、次のア〜エから選びなさい。

〈ア〉強意の係助詞「なむ」 イ、願望の終助詞「なむ」 ウ、強意の助動詞「ぬ」の未然形+推量(意志)の助動詞「む」 エ、ナ変動詞の未然形活用語尾+推量(意志)の助動詞「む」

1 「死なば一所で死なむ。」 (平家物語)

六、次の傍線部の用法として適当なものを、次のア〜ウから選びなさい。

〈ア〉希望の終助詞「ばや」 イ、接続助詞「ば」(仮定条件) +係助詞「や」 ウ、接続助詞「ば」(確定条件) +係助詞「や」

1 紅に衣染めまく欲(ほ)しけども着てにははばや人の知るべき (万葉集)

七、傍線部を文法的に説明しなさい。

1 日(ひ)ごろ月(つき)ごろ、…：…悩みわたるが怠りぬるもをかし。 (枕草子)

2 命長ければ辱(はぢ)多し。 (徒然草)

3 朝なさなあがる雲雀(ひばり)になりてしか (万葉集)

4 蛇(くちなは)をば大井河に流してけり。 (徒然草)

5 髪もいみじく長くなりなん。 (更級日記)

6 忘れたまふな (万葉集)

7 「この影を見れば、いみじう悲しな。」 (更級日記)

8 世の不思議を見ること、ややたびたびになりぬ。 (方丈記)

9 家に至りて門に入るに、月明かければ、いとよくありさま見ゆ。 (土佐日記)

10 春やむかしの春ならぬ (古今集)

- 1 1 夜ふけぬ。帰りたまひぬ。 (大和物語)
- 1 2 「いね。」と言ひければ、 (大和物語)
- 1 3 玉の緒よ絶えなば絶えね永らへば忍ぶることの弱りもぞする (新古今集)
- 1 4 名をばさかきの造(みやつこ)となむいひける。 (竹取物語)
- 1 5 恋しからむをりをり、とり出でて見たまへ。 (竹取物語)
- 1 6 あはれに思ひ出でられなどして、心もそらにながめ暮らさる。 (更級日記)
- 1 7 この世なる間(ま)は楽しくをあらな。 (万葉集)
- 1 8 改めて益(やく)なきことは、改めぬをよしとするなり。 (徒然草)
- 八、傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア・イから選びなさい。  
 <ア> 格助詞 イ・接続助詞
- 1 又、麓に一つの柴の庵あり。すなはちこの山守が居る所なり。 (方丈記)
- 九、傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア・ウから選びなさい。  
 <ア> 過去の助動詞「けり」の已然形 イ・形容詞の已然形活用語尾 ウ・推量の助動詞「べし」の已然形の一部 エ・打消推量の助動詞「まじ」の已然形の一部 オ・希望の助動詞「まほし」の已然形の一部 カ・四段動詞の已然形活用語尾十完了の助動詞「り」の已然形(命令形)
- 1 秋にはをさをさ劣るまじけれ。 (徒然草)
- 十、傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア・エから選びなさい。  
 <ア> サ変動詞「す」の連用形 イ・過去の助動詞「き」の連体形 ウ・強意の副助詞「し」 エ・強意の終助詞「かし」の一部
- 1 用意せねば、折れなどして笑ふもまたをかし。 (枕草子)
- 十一、傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア・ウから選びなさい。  
 <ア> 副詞「しか」 イ・過去の助動詞「き」の已然形 ウ・過去の助動詞「き」の連体形+疑問の係助詞「か」  
 エ・強意の副助詞「し」+疑問の係助詞「か」 オ・希望の終助詞「てしか」の一部
- 1 ほととぎす無かる国にも行きてしかその鳴く声を聞けば苦しも (万葉集)
- 十二、傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア・ウから選びなさい。  
 <ア> 格助詞「して」 イ・接続助詞「して」 ウ・サ変動詞の連用形(活用語尾)+接続助詞「て」
- 1 そこなりける岩におよびの血して書きつけたりける。 (伊勢物語)
- 十三、傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア・ウから選びなさい。  
 <ア> サ変動詞「す」の未然形 イ・過去の助動詞「き」の未然形 ウ・使役(尊敬)の助動詞「す」の連用形
- 1 老いらくの来むと知りせば門さしてなしと答へて会はざらましを (古今集)
- 十四、傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア・イから選びなさい。  
 <ア> 完了(強意)の助動詞「つ」 イ・接続助詞「て」
- 1 今いくかありて若菜摘みてむ (古今集)
- 十五、傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア・ウから選びなさい。  
 <ア> 格助詞「と」 イ・接続助詞「と」 ウ・断定の助動詞「たり」の連用形 エ・形容詞の連用形活用

語尾 オ・副詞の一部

1 同じ心ならむ人としめやかに物語して、 (徒然草)

十六・傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア〜ウから選びなさい。

〈ア〉禁止の副詞「な」 イ・禁止の終助詞「な」 ウ・詠嘆の終助詞「な」 エ・奈良時代の意志の終助詞「な」 オ・完了(強意)の助動詞「ぬ」の未然形 カ・打消の助動詞「ず」の未然形 キ・希望の終助詞「てしがな」の一部

1 童(たつ)の首の玉取り得ずは、帰来(く)な。 (竹取物語)

十七・次の文中の〈なむ〉と同じ用法のものを、後のa〜eから選びなさい。

さてもやはながらへ住むべき。また時のまの煙ともなり(なむ)。

1 長くとも、四(よ)十(そぢ)に足らぬほどにて死なむこそ、めやすかるべけれ。 (徒然草)

・一生は雑事(ざふじ)の小節(せうせつ)にさへられて、空(むな)しく暮れなん。 (徒然草)

・小倉山峰(せうざん)のみち葉心(みぢはこころ)あらば今ひとたびのみゆきまたなむ。 (拾遺集)

・身は卑(ひ)ながら、母(はは)なむ宮(みや)なりける。 (伊勢物語)

・桜花(さくら)散(ち)らば散(ち)らなむ散(ち)らずとてふるさと人のきても見(ま)なくに (古今集)

十八・次の文中の〈なり〉と同じ用法のものを、後のa〜eから選びなさい。

秋の野に人まつ虫の声す(なり)われかと行きていざとぶらはむ (古今集)

1 おそくいづる月にもあるかなあしひきの山のあなたも惜しむべらなり。 (古今集)

・筑波嶺(つくはた)の峰(みね)より落(お)つる男(おとこ)みな女(め)の川(がは)恋(こ)ぞつもりて淵(ふち)となりぬる (後撰集)

・笛(ふえ)をいとかしく吹きすましてすぎぬなり。 (更級日記)

・おとには聞(き)けども、いまだ見(ま)ぬものなり。 (竹取物語)

・容体(ようたい)ほそやかにあてなりければ、 (落窪物語)

十九・傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア〜キから選びなさい。

〈ア〉格助詞「に」 イ・接続助詞「に」 ウ・完了の助動詞「ぬ」の連用形 エ・断定の助動詞「なり」の連用形 オ・形容動詞の連用形活用語尾 カ・ナ変動詞の連用形活用語尾 キ・副詞の一部

1 その里に、いとなまめいたる女はらから、住みけり。 (伊勢物語)

二十・傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア〜ウから選びなさい。

〈ア〉格助詞「にて」 イ・断定の助動詞「なり」の連用形+接続助詞「て」 ウ・形容動詞の連用形活用語尾+接続助詞「て」

1 深き河を舟にて渡る。 (更級日記)

二十一・傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア〜ウから選びなさい。

〈ア〉接続助詞「ば」(仮定条件) イ・接続助詞「ば」(確定条件) ウ・係助詞「ば」

1 ただ今行方なく飛びうせなば、いかと思ふべき。 (更級日記)

二十二・傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア〜ウから選びなさい。

〈ア〉推量の助動詞「らむ」 イ・動詞の未然形活用語尾+推量(意志)の助動詞「む」 ウ・形容詞の未然形活用語尾の一部+推量(婉曲)の助動詞「む」 エ・完了(存続)の助動詞「り」の未然形+推量(婉曲)の助動詞「む」 オ・打消の助動詞「ず」の未然形の一部+推量(婉曲)の助動詞「む」

1 人のいふらむことをまねぶらむよ。 (枕草子)

二十三・傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア〜ウから選びなさい。

〈ア〉格助詞「を」 イ・接続助詞「を」 ウ・間投助詞「を」

1 ある人、弓射ることを習ふに、 (徒然草)

1 十六 イ  
1 十五 ア  
1 十四 ア  
1 十三 イ  
1 十二 ア  
1 十一 オ  
1 十 ア  
1 九 エ  
1 八 ア  
1 7  
1 6  
1 5  
1 4  
1 3  
1 2  
1 1  
1 0  
9  
8  
7  
6  
5  
4  
3  
2  
1 七  
1 六 イ  
1 五 エ  
1 四 ウ  
1 三 イ  
1 二 イ  
1 一 ウ

格助詞「が」  
形容詞「長し」の已然形活用語尾  
希望の終助詞「てしか」の一部  
完了の助動詞「つ」の連用形  
完了の助動詞「ぬ」の未然形  
禁止の終助詞「な」  
詠嘆の終助詞「な」  
ラ行四段動詞「なる」の連用形  
接続助詞「に」  
打消の助動詞「ず」の連体形  
完了の助動詞「ぬ」の命令形  
ナ変動詞「いぬ」の命令形活用語尾  
完了の助動詞「ぬ」の命令形  
係助詞「ば」  
形容詞「恋し」の未然形活用語尾の一部+婉曲の助動詞「む」の連体形  
自発の助動詞「る」の終止形  
間投助詞「を」  
格助詞「を」

1 十七  
1 十八 b  
1 十九 c  
1 二十 ア  
1 二十一 ア  
1 二十二 ア  
1 二十三 ア

